

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990100182		
法人名	株式会社 トゥルーケア		
事業所名	グループホーム ハイブリッジ 2丁目		
所在地	栃木県宇都宮市若松原1丁目11-10		
自己評価作成日	平成29年8月7日	評価結果市町村受理日	平成29年9月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成29年8月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設での安心安全な生活を第一に考えている。そして、毎月のイベントを充実させるよう努めていく。その中で、家族に声を掛けながら、意思の疎通を図ることに努めて行く事。また、施設から出ていき、買い物等を楽しんで頂くように、努めて行く事です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は宇都宮市南部の住宅街にあり、近隣には運動公園や公的機関、商店等があり利便性に恵まれている。事業所内には3ユニットがあり、ユニット毎に特徴ある掲示がされている。敷地内には併設の交流センターがあり、月の行事や会議及び3ユニット合同の食事会などのイベントを開催している。地域の行事や会議の場所として交流センターを利用してもらい、積極的に地域交流を図っている。地域の行事に積極的に参加すると共に事業所の行事にも声をかけ、相互の交流に努めている。地域からの理解も得られるようになり、近隣者に災害時の避難場所として協力してもらうなど、良好な関係を築いている。職員は理念を基に安全なケアに取り組んでおり、協力医や訪問看護との連携により体調管理に努め、家庭的な雰囲気の中で利用者一人ひとりが思いに沿って暮らせるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に明るさを絶やさず、ゆとりある介護に徹するよう努めている。	職員同士で話し合っってわかり易くした「明るく元気にあいさつ・いつも笑顔でゆとりの介護」という理念を共有し、常にゆっくりとした優しい言葉かけを心掛けてケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の協力者を交えてのイベントを始め、地域の行事にも参加するように努力している。また、包括の行事に施設の交流センターを使っていただき、協力している。	主催行事には地域の人達の参加や協力が得られている。地域のお祭りや敬老会等に参加し、地域との交流を図っている。多くのボランティアの受け入れや自治会との連携のほか、地域住民に交流センターを利用してもらうなど、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の自治会に協力して、認知症の知識を高める計画で、自治会連合会の主催の徘徊訓練に協力している。一般の方々に認知症というものを理解していただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的の開催により、以前より地域の理解が得られているように感じられます。特に連合自治会からの働きで、他の施設からも参加していただき開催するようになりました。	会議は家族・自治会長・民生委員・近隣者・地域包括支援センター職員の参加で2カ月に1回開催している。活動状況等報告のほか参加者からは意見やアドバイスを受けサービス向上につなげている。自治会長からは「認知症徘徊訓練」に当事業所が協力したことが報告され、地域とのつながりが深まってきている。	会議が地域に理解されるようになったが、固定メンバーだけではなく、消防・警察・保健師・司法書士など多方面からの参加を試み、幅広い意見等を得て、それらをサービス向上に活かす取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括センターからの依頼もあって、交流センターを使っていただき、施設の存在をアピールすることができ、より信頼関係も築き挙げられています。	更新時などには支所に職員が出向いて市担当者に説明することもある。運営推進会議時に地域包括支援センター職員から助言を受けたり、交流センターの利用等で信頼関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々入居者様に対して、決して拘束するような介護、拘束しなければならないような介護を必要とすることのないように努めている。	身体拘束をしないケアに関するマニュアルを整備し、学習会等により言葉づかいなども含め、身体拘束のないケアの周知に努めており、職員全員が心得ている。事業所が住宅街にあり道路も近いなどの事情により、玄関は施錠しているが、すぐに開錠できるよう対応している。外出願望を満たすための定期的な散歩を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常日頃より、入居者様の実態を把握しながら、入居者様への虐待な行為は絶対にしてはならないということを、指導しています。		

グループホームハイブリッジ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様一人ひとりの立場や状況を把握しながら、家族様とも常に話し合う機会を設定し支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	くまなく説明して納得していただくように、実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様へは、毎月入居状況を通知しながら、要望等を聴くようにしている。	定期的に利用者の状況を通知するほか、家族の面会時には意見や要望を聞くようにしている。運営推進会議で出された意見や要望とも併せて運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とは、毎月初めに実施している各フロア一長とのリーダー会、職員等の全体会を実施したり、各フロアでのカンファレンスにおいて職員との情報交換をしている。	管理者は毎月の全体会議やリーダー会議等で職員の意見を聞くほか、日常のケアの中でも、意見を出しやすい雰囲気作りに努めている。カンファレンスにおいて食事のメニューや行事及びケアについての提案があり、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各フロアの状況を見ながら、職員間の仕事の状況を把握している。時には残業の手配も行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	若い職員が少ないことから、職員間に任せる事が多くなっている為、各自が責任を持って従事している。より意識を高めるため、できる限り研修に行くように言っていますが、現実はなかなかいきません。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の交流に関しては、自治会連合会の会長の勧めで何かと交流ができています。他の施設の運営推進会議にも参加して情報交換もできています。		

グループホームハイブリッジ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	状況を見ながら、特に入居者様の情報を把握することと、既存資料を見て信頼関係を少しでも早く見つけて、寄り添った介護ができるように心がけていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様とのコミュニケーションを密にしながら、お互いを理解しながら、信頼関係を築き上げていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様は、介護の情報が少ない事が多いため、少しでも現在の状況を理解して頂くことから、支援していくようにする。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様のすみかはこちらなんですと声かけを常に行い、不安な状況にならないように心がけている。決して押し付ける事のないよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の家族構成を理解して、家族様の理解者である事を、理解していただくよう努めて行きながら、築き上げている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様が入居されたときに、今まで使っていたものを持参していただいたり、衣類を持ってきてもらったりしている。	近隣者や友人の来訪があったり、家族と馴染みの店や場所に出かけたり、お墓参りに行くなど、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	イベントやらレクリエーション等において、同じ作業をしていただいたり、共通することを見つけるようにしながら、関係を築き上げていく。		

グループホームハイブリッジ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設退居されてからも、情報を入手したりしているのも、特別なことがあったりしたときは、施設に連絡があります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の要望等に満足していただけるように、各フロア内のカンファレンスを実施して協議しながら、努めている。	利用者の生活歴などを家族から聞き、さらに日々の暮らし方や何気ない様子・話し方から希望や意向を把握するよう努めている。入浴介助中の会話で本音が伺えることも多い。カンファレンスで協議し、思いや意向の実現に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様より今までの生活状況を理解しながら、ご本人に沿ったケアをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録をもとにしながら、実際の状況を常に理解して、向上心を欠かさないようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスと家族様の面会やイベントにいられた時を利用して、現状に沿った計画を作成している。	家族の面会時などに話し合い、意見や要望を把握し、毎月のカンファレンスでの職員からの意見等をケアマネージャーと相互に検討して介護計画を作成している。計画の見直しは3か月毎を基本とし、状況に変化が生じた時はその都度行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活記録と申し送りを作成して、介護計画が実施されているかを見ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の要望やニーズに対しては、家族の協力等を得ながら、状況に応じては本部の協力を得ることもある。		

グループホームハイブリッジ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に設立されてる、県の運動公園を利用しながら、春は花見に出かけたり、季節に応じて利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調に応じて、訪問看護もしくは主治医に相談しながら最適な医療を受診して行けるよう支援している。	協力医が利用者全員のかかりつけ医となっていて、月2回の往診と毎週の訪問看護の利用で適切な医療につないでいる。歯科医の往診もある。特別な疾病に関する受診は家族の付き添いのもとで行い、眼科の受診は職員及び家族で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	昨年の12月より訪問看護採用され週1来ることになり、今まで主治医である山口クリニックのドクターのみでしたので、情報が広がってより、最適な看護もできています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の入院に関しては、施設近辺の病院をできる限り使わせていただき、入院中の情報を把握しながら、退院後の介護に役立っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本施設では、看取り介護の加算は取得していませんが、入居者様の終末期に対しては、ご家族様と早めに相談する機会を設けていき、入居者様に沿ったケア考えている。	重度化した場合や終末期のあり方については早めに本人・家族と話し合い、事業所の対応を説明している。看取りの希望もあり、協力医及び訪問看護との連携によりケアにあたり、過去3年に5人の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の応急手当の訓練については、現状ではなかなか難しいものがありますが、資料を取り寄せたりしながら、対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の協力者の皆様には、施設の為に災害時にはご自宅へ保護していただけるように、体制作りが出来ました。	年2回、夜間想定を含む災害避難訓練を実施している。利用者の避難方法等について全職員が学習し、レベルアップを図っている。近隣者に避難者の受け入れを依頼するなど、協力体制を築いている。水・食糧の備蓄もある。	地域住民の理解を得て、災害時における避難者の受け入れが可能になったが、家族が避難先について把握できるよう、より一層の連絡体制の強化に期待したい。

グループホームハイブリッジ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の居室におけるプライバシーを常に理解している。本人らしさを大切にしている。	全職員が介護における心得を記した冊子「こころえ」により、利用者に対する理解や接遇等について学習している。利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した支援に努めている。書類等は事務室とフロアーに適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の希望に沿ったケアを第一に、そして、家族とのコミュニケーションを大切にしながら介護している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護職員の都合による介護をすることのないよう、入居者様を尊重した支援を実施している。必ず、見直し検討をしながら実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の個性をいかせるように、気をつけている。特に女性に関しては、女性であるような服装から身だしなみをするようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設内の業者による食事を提供している。時より家族を招いて、一緒に食事会を開催するようにしている。	食事は調理された物が業者から届き、職員が温め盛り付けし配膳している。職員は利用者を介助しながら一緒に食事している。時々行事食を取り入れたり、家族と一緒に3ユニット合同の食事会を実施し、利用者の楽しみとなっている。食事時のオルゴールの音も楽しい雰囲気を出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の確認と生活状況を合わせて、環境の変化の妨げにならないように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の中には、ご自分の歯を持って大事にケアをしている。入れ歯においても、衛生面を考えてうがい等を常に実施している。		

グループホームハイブリッジ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様が不快感を感じることはないように、排泄パターンを把握しながら、介護に努めている。トイレでの自立に向けた支援を実施している。	日頃から個々の状況や仕草から排泄パターンを把握し、さりげない声かけによりトイレでの排泄誘導に努めている。夜間はオムツやポータブルトイレを使用する方もいるが、ベッドセンサーマットの使用により転倒防止と早急の介助に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者様のADLを把握しながら、食後の運動と食事の内容を考えている。また、主治医との情報交換を絶やさないようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	施設としては、週2回としています。状況においては、臨機応変に対応している。	入浴は週2回午前中を基本としているが、利用者の希望や身体状況により柔軟な対応をしている。入浴剤を使用して楽しむ工夫や職員との会話で楽しむ支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の状況に応じたケアを常に考え、安眠出来るように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医と協力しながら、適切な対応を実施し症状の変化に対して即座に対応して行けるよう心掛けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人ひとりの個性を尊重しながら、個人の役割を与えたり、イベントを実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	施設の近辺にある栃木県運動公園を利用しながら、家族と共に楽しい時間を過ごせるように努めている。	毎日時間を決めて近隣を散歩したり、ショッピングモールやスーパーマーケットへの買い物などの外出支援に努めている。季節に応じて近くの運動公園の花見に出かけたり、小まめに来られる家族と外食を楽しめるよう支援している。	

グループホームハイブリッジ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様には一人ひとりの小遣い帳を作り、小口の財布を利用して支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様に対しては、家族への連絡をご自身にしていただいたり、手紙を書いて頂くこともしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設全体の色彩等に関しては、各フロアにおいて個性を生かしながら、居心地の良い環境作りを行っている。	リビングの壁面には季節の飾り物や利用者の作品を掲示し、季節感や生活感を感じさせる工夫をしている。室内は明るく清潔で温度や湿度も適度に管理している。リビングの片隅には畳の間があり、和の雰囲気を出し、居心地よく過ごせるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設におけるセカンドフロア等は設けてはいませんが、玄関のフロア等また、交流センターを利用しながら居場所の工夫を実施している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の際に、本人の使いやすい物や使い慣れたものを持参したりして、少しでも心地よい居室を目指している。	エアコン・洗面台・ベッド・タンス・カーテンなどが備え付けられている。タンスの上や壁面に家族の写真や好みの物を置いたり、引き出しには衣類名のステッカーを貼って分かりやすさに配慮するなど、利用者それぞれが安心して居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の家族の写真等、また、衣類の整理整頓、居室内の清掃をしたりしながらご自分の生活を見出せるよう、支援している。		